

■ 学校の共通目標

授業づくり 環境づくり	重点	生徒が主体的に学ぶ機会の多い授業形態への変換を行い、自ら考え、学び続けることができる生徒を育てる。	中間評価	主体的に学ぶ機会を増やすことで、思考力や表現力が身に付いてきた。	最終評価	学習場面にとどまらず、生徒が主体的に学ぶ機会を意識することで、学力向上に一定の成果を得ることができた。
		ICT機器の活用を通して生徒が主体となり、生徒が自ら考える場面を取り入れた楽しい授業を実践する。		ICT機器を生徒一人一人が使用する授業を実践し、積極的に学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。		生徒一人一人がICT機器を自然に使いこなし、積極的に学習に向かう姿勢が身に付いた。

■ 教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調2学年・3学年ともに全国の平均正答率を上回っており、新宿区学力定着度調査の結果は良好であった。しかし、領域別の正答率では、3学年で一部、全国平均を下回っている領域がある。</p> <p>調2学年は、総じて高い評価であり、特に「読むこと」の領域では目標値を1.3ポイントも上回っている。一方、「漢字を読む」問題では目標値を1.8ポイント、「文法・語句に関する知識」の問題は目標値を2.4ポイントしか上回っておらず、知識分野の向上が課題となった。</p> <p>調3学年は1年次よりも標準スコアが2.6ポイント下降しているが、「話すこと・聞くこと」の領域で目標値を2.3ポイント下回っていることが主要因と考えられる。一方、「読むこと」の領域は目標値を1.1ポイント上回っており、習熟度に偏りが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2学年は、基本的な知識の定着と、得た知識を学習や日常の場面で活用する力に課題がある。 3学年は、他者の話を聞き取ることと、自分の考えをより効果的に伝えるための構成を組み立てるという点において課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学年については、漢字や語彙など、言葉に関する知識が不足しているため、年間を通じて提出物や全学年実施の漢字小テストで定着度を測り、一人一人の状況を把握する。また、文章を書く回数を増やし、習得した漢字や語句を自分の言葉として扱う機会を設けていく。 3学年については、「話す・聞く」の単元において、根拠や例示の配置等、構成の組み立てに主眼を置くことで、相手に伝わりやすい話し方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の宿題として課したワークブックを利用し、漢字・語彙の確認をさせた。また、読書感想文や人権作文等にも取り組ませ、文章に触れさせる機会を設けた。提出状況も良好で、生徒の意識も高いので、さらに知識分野の向上に努めていく。 3学年の「話す・聞く」については、ワークシートによる構成の組み立てや、生徒の相互評価等により、相手に伝える際のポイントをつかませるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の書き取り練習や提出された作文の誤字チェックをこまめに行う等、繰り返し指導していく中で、漢字の学習を徹底させることができた。だが、定着度は生徒によって差があり、個別の声かけが必要と思われる。 「話す・聞く」場面では、相互評価をする前段階で発表内容についての「質問」を互いに行わせることで、話を聞く姿勢をもたせ、自分の意図を正確に伝えるために必要なポイントを考えさせることができた。一方で、臨機応変な対応や瞬間的な判断を苦手とする生徒が多く、今後も練習を重ねることが必要だと思われた。
社会	<p>調2学年は全国の平均正答率を2.5ポイント上回っている。3学年は全国の平均正答率を1.1ポイント下回っている。</p> <p>調2学年は「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点で全国平均を4.7ポイント、「社会的な思考・判断・表現」の観点で全国平均を3.2ポイント、「資料活用の技能」の観点では全国平均の3.7ポイント上回っている。一方で「社会的事象についての知識・理解」の観点では全国平均を1.3ポイント上回っているものの、ポイントの開きは他の3つの観点到くれば小さい。</p> <p>調3学年は「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点で全国平均を7.2ポイント、「社会的な思考・判断・表現」の観点で全国平均を5.1ポイント、「資料活用の技能」の観点では全国平均の3.7ポイント上回っている。一方で「社会的事象についての知識・理解」の観点では全国平均を5.4ポイント下回っている。</p> <p>調2学年は「活用」の領域で全国平均を5.2ポイント上回っている。一方で「基礎」の領域では全国平均を2.2ポイント上回っているものの、ポイントの開きは「活用」の領域には至らない。</p> <p>調3学年は「活用」の領域で全国平均を1.3.4ポイント上回っている。一方で「基礎」の領域では全国平均を4.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「社会的事象についての知識・理解」の理解が不十分である。 「基礎」の領域の定着率が低い。 基礎的・基本的な用語が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用の技能」を高めるワークシート、「社会的事象への関心・意欲・態度」を高める主体亭・対話的で深い学びを実現する授業形態やプレゼン資料に加えて、各学年ともにワークブックを導入し、回収期限を定めて取り組ませる。 定期考査で意識的にごく記述問題を作成し、基礎的・基本的な用語について学習の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの宿題としてワークブックを提出させた。定期考査ではワークブックを中心とした出題を増やすことでワークブックの取り組みの質を高めさせる働きかけを行っていることもあり、しっかりと取り組んでいる生徒が多い。 前述のようにワークブックから定期考査を出題することで基礎的・基本的な用語を定着させる働きかけを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークブックを長期休業明けに回収することで、全員に取り組ませ、補助教材として有効に活用することができた。 ワークブックを導入し、定期気考査で意図的に語句記述の設問を作問することで社会的事象の名称など用語を意識させ、基礎的・基本的な内容を定着させる取り組みを行うことができた。

数学	<p>調 2学年は全国の平均正答率 9.7 ポイントを上回っており、どの領域も総じて全国の平均正答率を上回っている。相対的には関数の分野の正答率が低めである。3学年は全国の平均正答率を 10.7 ポイント上回っており、どの領域も総じて全国の平均正答率を上回っている。相対的には図形の分野の正答率が低めである。</p>	<p>2学年では、関数の定着度の低さが課題である。3学年では、図形の定着度の低さが課題である。また、一部の生徒において、1・2 年次の単元についての定着度の低さも課題である。</p>	<p>関数について、1 年次は「比例・反比例」（小学校の復習）、2 年次は「関数関係や比例・反比例の意味、座標やグラフ」、3 年次は「1 次関数」というように前年までに学習した関数分野の内容と新しい単元との関連を示しながら、関数を数量的にとらえたり、図形的にとらえたりすることで、少しでも苦手意識をなくして、授業を進めていく。</p> <p>図形について、既習の事項や用語に授業で多く触れるようにし、過去の学習事項との関連を示しながら、様々な問題に取り組むようにする。</p> <p>基礎・基本の定着を図るために小テスト等を積極的に実施していく。</p> <p>プリント学習等で生徒がじっくり考える時間をつくり、単に解くだけでなく、一つ一つの問題をいろいろな側面からとらえることで別解等も積極的に扱っていく。</p> <p>問題が解けることによって達成感を感じられるよう、問題設定や難易度を工夫するようにする。</p>	<p>関数について、前年度までの既習事項の復習を行い、関連性を示しながら授業を展開した。また、ICT の活用により視覚的に理解できるようにも授業で工夫した。</p> <p>図形については、どの学年でもまだ扱い始めたところであるが、問題演習の量と質を精選し、類題を解く力をつけるように計画的に授業を展開している。</p> <p>各学年とも、単元末に小テストを実施し、学力を定期的に点検し、生徒に学習意欲を継続させる意識づけとしている。</p> <p>各学年とも、オリジナルのプリントを作成し、問題演習を十分に行えるよう計画的な授業を展開している。</p>	<p>単元ごとに小テストを行い、定期的に生徒の学力をはかるとともに、生徒の学習意欲を刺激した。定期考査ごとにワークブックを回収し、生徒たちの学習の進捗を確認するとともに、自主的な学習を促した。</p> <p>関数については、式の求め方やグラフの書き方を反復することで、苦手意識を残した生徒はほとんどいなかった。図形についても計算練習を多く取り組んだ他、スモールステップで証明文をかけるよう工夫し、生徒は理解を深めた。</p> <p>一方で既習事項が定着しないことがあるので、学習内容と絡めて、定期的に確認していく必要がある。</p>
理科	<p>調 2学年では、全国の平均を 2. 1 ポイント下回った。観点別で見ると、自然事象への関心・意欲・態度、科学的な思考、知識・理解の項目は、全国平均を上回ったが、知識・理解の項目は約 6 ポイント下回っている。</p> <p>調 3学年では、全学年で 1. 6 ポイント全国平均を下回った。観点別で見ると、自然事象への関心・意欲・態度、科学的な思考は、ほぼ全国平均であったが、実験・観察、知識・理解の観点については、下回っている。領域別で見ると、化学の分野が大きく下回っている項目が多い。</p> <p>学 3学年では、定期考査でも化学反応式の正答率が低い。</p>	<p>2学年は、用語を正しく使って説明することや説明している内容の用語を書く問題が苦手である。</p> <p>3学年は、化学反応式・実験操作の意味の定着が課題である。</p>	<p>用語に関しては、小テストを行い、定着を図る。</p> <p>化学反応式は、化学分野の授業の時に繰り返し確認をしたり定期考査に入れたりする。</p> <p>また、実験操作では、繰り返し出てくる操作があるので、その都度、なぜその操作をしなくてはいけないのかを考えさせていく。</p>	<p>・小テストを繰り返し行うことで、用語を覚えることはできつつあるが、正しく使って説明することに課題がある。</p> <p>・化学反応式は、2、3 年の化学分野で、繰り返し確認をしてきたことで、粒子の概念が感覚的にとらえられるようになってきている。今後は化学分野以外でも化学反応式を意識させていく必要がある。</p> <p>・操作の意味を意識させることで、操作ミスが少なくなり効率よく実験できるようになった</p>	<p>・小テストを繰り返し行うことによって、用語を覚えることは定着しつつあるが、正しく使って説明するところまでは至らなかった。</p> <p>・化学反応式の定着は十分でない部分があった。化学式を定着させた上で、化学反応式を定着させていくことが必要である。</p> <p>・2 年生では、実験の回数が多かったこともあり、年度当初より操作がスムーズになり、効率よく実験できるようになった。</p>
英語	<p>調 2学年では、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、理解の能力そして言語や文化についての知識・理解、ほぼすべての観点で全国平均を 5 ポイントから 1 9. 1 ポイント上回った。ただし、3 文以上の英作文に関しては、全国平均を 0. 6 ポイント上回るにとどまった。</p> <p>調 3学年でも、すべての観点で全国平均を上回った。特に、語彙の知識・理解は 1 4. 7 ポイントと様々な英文の読み取りは 1 4. 4 ポイント、全国平均と比較して高かった。ただし、3 文以上の英作文は、3. 2 ポイント下回った。</p>	<p>2学年では、自分の意見や気持ちを表現するなどの英作文に課題がみられる。</p> <p>3学年でも、自分の意見や気持ちを表現するなどの英作文に課題がみられる。</p>	<p>どの学年においても既習事項を活用し、運用する力を伸ばすために、ALT の話を聞き取り、要約して英作文をし、発表するなどの活動を授業に取り入れていく。</p>	<p>ALT の話の聞き取りだけでなく、英作文をしたり、それを発表したりする機会を設けている</p>	<p>2学年は、英語への関心・意欲が高く、それに伴い、話したり書いたりする表現活動を楽しめるようになった。また、授業の最初の活動に、その場で課題を与えて表現させるなど即効性を伸ばすような活動を取り入れたことも効果があった。</p> <p>3学年では、自分の考えや気持ちを書いて表現する学習に取り組むことができた。短めの文を読むことも授業の最初の活動に繰り返し取り入れたことで、長い文を読むことや概要をとらえる力がついた。</p>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は 2 ページ以上となってもよい。